

再評価結果（平成30年度事業継続箇所）

担当課：道路局 国道・防災課

担当課長名：村山 一弥

事業名 北海道横断自動車道 根室線 <small>ほんべつ くしろ</small> 本別～釧路	事業区分 高速自動車国道	事業主体 国土交通省 北海道開発局				
起終点 自：北海道中川郡本別町 共栄 <small>ほっかいどうなかがわほんべつ きょうえい</small> 至：北海道釧路市鶴野 <small>ほっかいどうくしろ つるの</small>	延長 65.0 km					
事業概要 北海道横断自動車道は、黒松内町を起点とし、小樽市、夕張市、清水町、本別町等を経由して、根室市及び網走市に至る延長約694kmの高速自動車国道である。 このうち本別～釧路は、高速ネットワークの拡充による釧根圏と道央・十勝圏の連絡機能の強化を図り、地域間交流の活性化、物流効率化等の支援を目的とした、本別インターチェンジから釧路西インターチェンジに至る延長65.0kmの事業である。						
H15年度事業化	H-年度都市計画決定 (H-年度変更)	H16年度用地着手				
全体事業費 約2,162億円		事業進捗率 88%				
計画交通量 5,400～6,000台/日		供用済延長 48.0 km				
費用対効果分析結果	<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="text-align: center;"> B/C <small>(事業全体)</small> 1.3 <small>(残事業)</small> 7.7 </td> <td style="text-align: center;"> 総費用 <small>(残事業)/(事業全体)</small> 291/2,335億円 (事業費：235/2,217億円) (維持管理費：56/118億円) </td> <td style="text-align: center;"> 総便益 <small>(残事業)/(事業全体)</small> 2,229/3,128億円 (走行時間短縮便益：1,843/2,575億円) (走行経費減少便益：300/424億円) (交通事故減少便益：86/129億円) </td> <td style="text-align: center;"> 基準年 平成26年 </td> </tr> </table>	B/C <small>(事業全体)</small> 1.3 <small>(残事業)</small> 7.7	総費用 <small>(残事業)/(事業全体)</small> 291/2,335億円 (事業費：235/2,217億円) (維持管理費：56/118億円)	総便益 <small>(残事業)/(事業全体)</small> 2,229/3,128億円 (走行時間短縮便益：1,843/2,575億円) (走行経費減少便益：300/424億円) (交通事故減少便益：86/129億円)	基準年 平成26年	事業進捗率 88%
B/C <small>(事業全体)</small> 1.3 <small>(残事業)</small> 7.7	総費用 <small>(残事業)/(事業全体)</small> 291/2,335億円 (事業費：235/2,217億円) (維持管理費：56/118億円)	総便益 <small>(残事業)/(事業全体)</small> 2,229/3,128億円 (走行時間短縮便益：1,843/2,575億円) (走行経費減少便益：300/424億円) (交通事故減少便益：86/129億円)	基準年 平成26年			
感度分析の結果 事業全体及び残事業について感度分析を実施 【事業全体】交通量：B/C=1.2～1.5（交通量±10%） 事業費：B/C=1.3～1.4（事業費±10%） 事業期間：B/C=1.3～1.4（事業期間±20%）						
事業の必要性及び効果						
①主要都市間の利便性向上 ・釧路市から札幌市までの所要時間が夏期で47分（冬期は72分）短縮され、地域住民の利便性向上や地域間交流の活性化が期待される。 ②災害時の緊急輸送ルートの強化 ・大規模な迂回の回避や津波時の緊急避難道路としての活用が想定されるとともに、災害により被災した地域からの迅速な救急搬送、救援物資等の輸送の確実性向上が期待される。 ③国際コンテナの物流効率化 ・狭小トンネルや線形不良区間を回避した国際コンテナの輸送が可能となるほか、釧路港と帯広市間の所要時間が夏期で45分（冬期は67分）短縮され、釧路港との物流効率化が期待される。 ④水産品の流通利便性向上 ・道内各地のみならず、苫小牧港、小樽港等から全国各地へ出荷される水産品（さんま：12.5万t/年）の流通利便性向上が期待される。 ⑤石油製品の流通利便性向上 ・釧路港から十勝方面までの所要時間が夏期で41分（冬期は60分）短縮され、石油製品の流通利便性向上が期待される。 ⑥救急搬送の安定性向上 ・帯広と釧路の血液センター間の所要時間が夏期で13分（冬期は48分）短縮されるなど、救急搬送及び血液輸送の安定性向上が期待される。 ⑦主要な観光地への利便性向上 ・道央圏との所要時間が夏期で43分（冬期は63分）短縮され、主要な観光地への利便性向上が期待される。 ⑧CO ₂ 排出量の削減 ・自動車からのCO ₂ 排出量33,643（t-CO ₂ /年）の削減が期待される。						

関係する地方公共団体等の意見

地域から頂いた主な意見等：

釧路市、帯広市など6市14町村の首長等で構成される「北海道横断自動車道早期建設促進期成会」等から早期整備の要望を受けている。

知事の意見：

高速ネットワークの拡充による道央・十勝・釧路圏の連絡強化により、地域間交流の活性化や物流の効率化が図られるなど、道民生活の向上や経済・社会活動の活性化に寄与することから、当該事業の継続について異議はありません。

なお、事業の実施にあたっては、平成2年12月3日付け道路第1322号「北海道横断自動車道小樽釧路線（阿寒町～釧路市間）に係る環境影響評価準備書に関する意見について」の知事意見を遵守するとともに、より一層の徹底したコスト縮減を図り、これまで以上に効率的・効果的な執行に努め、早期完成を図るようお願いいたします。

事業評価監視委員会の意見

当委員会に提出された再評価原案準備書の対応方針については、北海道開発局案を妥当と判断する。

事業採択時より再評価実施時までの周辺環境変化等

- ・北海道横断自動車道が池田IC～阿寒IC、本別JCT～足寄IC、訓子府IC～北見西ICまで開通
- ・国道38号・44号 釧路外環状道路 釧路西IC～釧路東IC開通
- ・国道38号 釧路新道 全線開通（暫定2車線を含む）
- ・国道272号 上別保道路 部分開通（L=1.2km）
- ・釧路市、阿寒町及び音別町が合併し、釧路市が誕生
- ・釧路市及び弟子屈町が「水のカムイ観光圏」に認定、道東地域が広域観光周遊ルートに認定、釧路市が観光立国ショーケースに認定、阿寒国立公園が国立公園満喫プロジェクトを策定
- ・釧路港が国際バルク戦略港湾（穀物）及び特定貨物輸入拠点港湾（穀物）に指定

事業の進捗状況、残事業の内容等

平成16年度に工事着手して、用地進捗率92%、事業進捗率88%となっている。（平成29年3月末時点）

事業の進捗が順調でない理由、今後の事業の見通し等

引き続き、早期開通に向けて事業を進める。

施設の構造や工法の変更等

津波による縦断線形の変更、設計基準類の改訂に伴う見直し等による変更。引き続きコスト縮減に取り組んでいく。

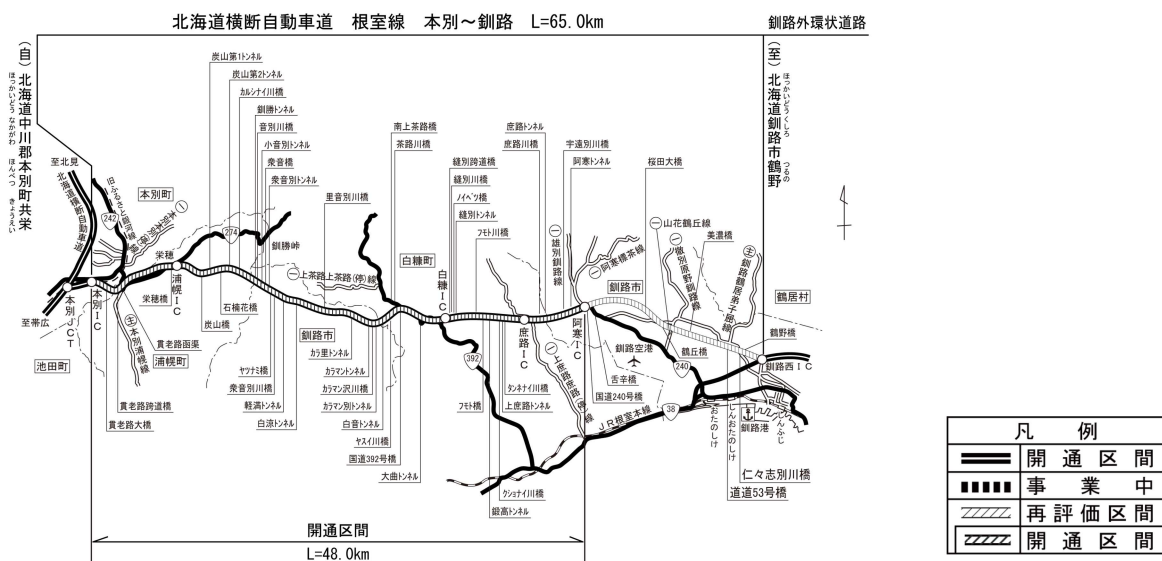
対応方針

事業継続

対応方針決定の理由

事業の必要性・重要性に変化はなく、費用対効果等の投資効果も確保されているため。

事業概要図



※ 総費用、総便益とその内訳は、各年次の価額を割引率を用いて基準年の価値に換算し累計したもの。